

東邦大学薬学部における実務実習事前学習の取り組みと 薬局薬剤師との協同による セルフメディケーションに関する新規ロールプレイ課題（葛根湯）の作成

平賀秀明¹⁾、松島達也²⁾、高橋瑞穂¹⁾、藤枝正輝¹⁾、田中博之¹⁾、増田雅行¹⁾、石井敏浩¹⁾

¹⁾ 東邦大学薬学部医療薬学教育センター、²⁾ 誠心堂薬局南行徳本店

【はじめに】

厚生労働省より2015年に「患者のための薬局ビジョン」が公表されて以降、薬剤師業務は薬中心から患者中心の業務へと大きく転換しつつある¹⁾。また、薬局・薬剤師に対しては、地域に密着した健康情報の拠点として一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行うなどのセルフメディケーション推進が、医療費削減への期待とともに求められている¹⁾。

一方、大学教育においても薬剤師をとり巻く社会変化への対応は必然であり、実務実習事前学習における実践的な教育は、実務実習を効果的に実施する上でも重要である。特に処方内容チェック、医師への疑義照会、丁寧な服薬指導などを中心とする対人業務¹⁾については、座学による講義では教育効果に限界があるため、医療現場を想定したシミュレーション教育がより効果的である。

そこで、東邦大学薬学部では、セルフメディケーションに関する実務実習事前学習の強化のために、一般用医薬品の患者情報の収集と情報提供における新規ロールプレイ課題（症例）を薬局薬剤師との協同で作成した。本稿では、プレ実務実習での取り組み等と共に、これらを紹介したい。

【実務実習事前学習における情報収集・情報提供に関する実習と外部薬剤師の参加】

東邦大学薬学部では、実務実習事前学習として、4年次に「プレ実務実習」（合計6.0単位）を開講し、薬局、病棟、在宅、一般用医薬品販売時における患者や来局者に対する情報収集・情報提供に関する実習は、主に例年9～11月に開講される「プレ実務実習Ⅱ（実践薬学）（2.5単位）」において実施している²⁾。当該実習では、医療の最前線の実情を踏まえた学生指導を行うため、専任教員のみならず外部薬



図1 協力薬剤師・模擬患者と共に（実習後、講義室に一堂に会した様子）

剤師の方にも参加して頂いている(2023年度は、延べ78名の薬局・病院薬剤師にご協力頂いた。)(図1)。なお、外部薬剤師には、学生と模擬患者が行う服薬指導などのロールプレイの進行やその後の学生指導を担って頂いている。外部薬剤師の実習参加については、初めて実習に参加する場合は、まず見学して頂き、2回目以降から学生への指導を依頼している。ご協力頂くにあたっては、外部薬剤師の都合を優先し(1人1~2回程度ご協力頂いている)、僅かながら謝金もご用意している。ご興味のある薬剤師の先生方は、東邦大学薬学部医療薬学教育センターの教員までお問い合わせ頂きたい。

情報収集・情報提供に関する実習は、4日間(1日目:全体説明、2日目:薬局、3日目:病棟・在宅、4日目:一般用医薬品)かけて行っており、1回の実習は、学生(約40名)、協力薬剤師(約4~5名)、

教員(約2~3名)、模擬患者(約5名)が参加し、5グループに分かれてロールプレイを実施している。

【セルフメディケーションに関する新規ロールプレイ課題(葛根湯:一般用医薬品)の作成】

薬局やドラッグストアにおいて日常多く遭遇するような疾患や実務実習前に大学で経験しておいて欲しい症例などについて、千葉県の薬局薬剤師と情報交換を行い、初期の感冒症状を呈する顧客への葛根湯の説明に関する学生用新規ロールプレイ課題(症例)及び説明文書を協同で作成した(図2及び3)。また、症状にあわせた葛根湯と銀翹散の使い分け、高血圧患者への指導など、ロールプレイ時の指導のポイントなども作成している(図4)。

葛根湯を題材とした理由は、そもそも漢方薬は、主に感染症に対する治療術として発達し、現在でも麻黄湯、小青竜湯、葛根湯など様々な漢方薬が臨

来局者背景(感冒)

- 来局者の氏名、性別、年齢、家族構成などは自由に設定して下さい。
- 「場面設定」、「来局者の考え・希望」の主要部分(下線部分)には変更を加えない下さい。
- その他の部分についてはアドリブで答えていただいて結構です。

○場面設定

今朝から37℃の微熱があった。昼頃から次第に熱が高くなってきたのを感じるが、汗は出ず、寒気と鼻水(透明)、関節の痛みがはじめてきた。何となく倦怠感を感じるが仕事ができないほどではない。今のところ喉の乾きや咽頭痛はなく、痰や咳もまだ出ていない。食欲はある。

○来局者の考え、希望

午後には、熱が下がると思っていたが、だんだん体調が悪くなってきたので、早めにケアしたいと考えている。仕事も忙しく、かかりつけの病院はいつも混んでいるので行くのが面倒であり、病院へ行くほど辛くもなく、ただの感冒だろうと思い、市販薬で対処したいと考えている。ただ以前、市販の総合感冒薬を飲んだ時に眠気とだるさが出て、仕事にも支障が出たので、あまり飲みたくない。今晚、早く寝れば治るかなとは思っているが、明日は会議があり、そこでプレゼンをしなくてはいけないので、今のうちに処置して明日に備えたい。

○既往歴 高血圧

○嗜好歴

タバコ:吸わない

酒: 毎日缶ビール1缶(350ml)程度

味の好み: 特に好き嫌いはない。コーヒー: 2~3杯/日

○アレルギー歴: アレルギー性鼻炎(スギ花粉症)

○薬の副作用歴: 総合感冒薬や抗アレルギー剤を飲むと眠気が出る。

○悪寒発熱以外の症状

関節痛+, 鼻水+, 倦怠感+, 食欲+, 咽頭痛-, 痰-, 咳-

○他科受診

循環器内科にて高血圧の治療中

○現在使用中の薬など

プロプレス4mg 1回1錠 朝

○家族歴

例: 母は脂質異常症、高血圧 (60歳代以降)

○その他、来局者背景

図2 新規ロールプレイ課題の患者背景

医薬品を正しく使用するための説明文書

名称	お薬の使い方	お使いいただく際の注意
葛根湯エキス顆粒 A クラシエ	成人の方は1回1包を1 日3回 食前又は食間に 水又は白湯で服用して ください。	1. 服用後、発疹・発赤、か ゆみ、吐き気、食欲不振、 胃部不快感等の症状が 現れる場合があります。
成分の名称と分量		2. 手足のだるさ、しびれ、 つつぱり感やこわばり に加えて、脱力感、筋肉 痛が現れ、徐々に強くな る場合があります。
葛根湯エキス 1.7g／1包中	※1ヵ月位（感冒の初 期、鼻かぜ、頭痛に 服用する場合には5 ～6回）服用しても 症状がよくならな い場合は服用を中 止し、医師または薬 剤師にご相談くだ さい。また、長期連 用する場合もご相 談ください。	3. 発熱、黄疸（皮膚や白目 が黄色くなる）、褐色尿、 全身のだるさ、食欲不振 等が現れる場合があり ます。
効能・効果		上記の症状が現れた場合に は服用を中止し、すぐ医師 または薬剤師にご相談くだ さい。
体力中等度以上のもの の以下の症状を緩和し ます： 感冒の初期（汗をかい ていないもの）、鼻か ぜ、鼻炎、頭痛、肩こ り、筋肉痛、手や肩の 痛み		

図3 新規ロールプレイ課題の説明文書

ロールプレイ後の指導ポイント（指導薬剤師向け）

【ポイント①】

総合感冒薬を飲むと眠気とだるさが出るので、総合感冒薬ではない感冒薬が欲しい。そこで薬剤師として患者のニーズに合わせ眠気が出ない漢方薬を選択する。

【ポイント②】

悪寒、発熱、鼻水、無汗 → 風寒感冒（葛根湯、麻黄湯など）
発熱、咽頭痛、口乾、発汗 → 風熱感冒（銀翹散、驅風解毒散など）
* 葛根湯と銀翹散（ぎんぎょうさん）の使い分け

【ポイント③】

葛根湯：葛根、麻黄、桂皮、芍薬、大棗、甘草、生姜
麻黄：エフェドリン含有による動悸・血圧上昇に注意
甘草：グリチルリチン含有による偽アルドステロン症状（むくみ、血圧上昇）に注意
* 高血圧患者への指導（当該患者は高血圧の治療中）

図4 新規ロールプレイ課題の学生指導のポイント

床現場で使用されている³⁾。実際に、外来処方された患者の13.5%に漢方薬が処方され、医療用の漢方薬の中で最も多く処方されていたのは葛根湯(15.7%)であることが報告されている⁴⁾。また、2021年度における漢方薬の生産金額は、約1,900億円(医療用医薬品:約1,500億円、一般用医薬品:約400億円)であり、そのうち葛根湯の生産金額は約40億円(10位)となっている⁵⁾。一般用医薬品としての葛根湯の販売量や生産金額に関する詳細なデータは不明であるが、葛根湯は「罹患ごく初期の背中に悪寒が走るかぜ」に対して使用されており³⁾、医薬品医療機器総合機構の一般用医薬品・要指導医薬品 添付文書等情報検索では、「葛根湯」と名前が付いた一般用医薬品も166製品存在していた(2023年10月時点)⁶⁾。これらのことから葛根湯は、一般用医薬品としても汎用されているポピュラーな製品であり、学生用のロールプレイ課題を作成した際の教育的効果は十分あると考えられる。

なお、2022年及び2023年度のプレ実務実習において当該課題を使用しているが、実習での活用は非常にスムーズに進んでいる。

【おわりに】

東邦大学薬学部では、セルフメディケーションに関する学内での実習の強化のために、一般用医薬品の患者情報の収集と情報提供における新規ロールプレイ課題(葛根湯)を薬局薬剤師と共に作成した。また、今回紹介したロールプレイ課題以外にも、千葉県の病院薬剤師と協力して閉塞性動脈硬化症のロールプレイ課題を作成するなど、今後の薬剤師業務や疾病構造の変化などに対応するために、臨床現場のご意見を頂きながら随時改善を図っている。今後とも地域の薬剤師養成のために、薬剤師の皆様からの益々のご支援を賜れば幸いである。

【謝辞】

東邦大学薬学部のプレ実務実習にご協力頂きました薬剤師の先生方、模擬患者の皆様に感謝申し上げます。

【引用文献】

- 1) 厚生労働省. 患者のための薬局ビジョン. https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11121000-Iyakushokuhinkyoku-Soumuka/vision_1.pdf (2023年10月11日アクセス)
- 2) 東邦大学薬学部. 2023年度シラバス(プレ実務実習Ⅱ(実践薬学)). https://www.toho-u.ac.jp/syllabus/phar/TOHO_CD_2023/2340214000.html (2023年10月11日アクセス)
- 3) 小池宙. 【かぜ症状の診療戦略】かぜと漢方薬. ENTONI 2017; 212: 52-58.
- 4) Yamana H, et al. Outpatient Prescriptions of Kampo Formulations in Japan. Internal Medicine 2020; 59: 2863-2869.
- 5) 日本漢方生薬製剤協会. 漢方製剤等の生産動態. <https://www.nikkankyo.org/serv/movement/R03/all.pdf> (2023年10月11日アクセス)
- 6) 医薬品医療機器総合機構. 一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索. <https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/otcSearch/> (2023年10月11日アクセス)

《連絡先》

〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1

東邦大学薬学部医療薬学教育センター

社会薬学研究室 平賀秀明

E-mail: hiraga-hideaki@phar.toho-u.ac.jp

TEL/FAX: 047-472-1664